

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 15 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01194

研究課題名（和文）近現代社会運動のグローバルな拡散のメカニズムに関する思想史的研究

研究課題名（英文）Research on the mechanism of global diffusion of modern and contemporary social movements from the perspective of the history of ideas

研究代表者

田中 ひかる（Tanaka, Hikaru）

明治大学・法学部・専任教授

研究者番号：00272774

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近現代史上の社会運動とその基盤となったさまざまな思想が、世界各地でほぼ同時に形成された原因が、運動と思想のグローバルな拡散とそのメカニズムにある、ということ、思想史的観点から実証的に解明することに成功し、研究の目的を達成した。これを具体的な事例で提示しているのが『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』（田中ひかる編、論創社、2023年3月刊行）、『国境を越える日本アナキズム 19世紀末から20世紀半ばまで』（田中ひかる編、水声社、2024年2月刊行）である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、世界でほぼ同時かつ多発的に、もしくは一定のタイムラグを持って、世界の各地で、似通った社会運動が起きる、そのような現象の原因は、一国から一国への伝播として考えられてきた。それに対して本研究は、社会運動と思想の情報が多様な方向に広がる中、模倣・改変・部分的利用・拒絶等の多様で複雑な受容のプロセスを経て社会運動が別の場所で生まれる、というグローバルな拡散のメカニズムがあることを明らかにした。これにより、本研究は通説に大幅な変更を加えたという点で学術的意義があり、世界各地で起きる過去から現在に至る社会運動を理解する上で、新たな認識の枠組みを、多様な人々に提示したという点に社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the causes of the almost simultaneous formation of social movements and their foundational ideas in various parts of the world in modern and contemporary history. Through four years of research, we have empirically elucidated from an ideology-historical perspective that the cause of this is the global diffusion of movements and ideas and its mechanisms, and have almost achieved the objective of our research. This is demonstrated in concrete examples in “The Global Diffusion of Social Movements: Ideas and Movements Created and Practiced” (ed. Hikaru Tanaka; Tokyo: Ronsosha, March 2023) and “Japanese Anarchism Across Borders: From the End of the 19th Century to the Middle of the 20th Century” (ed. Hikaru Tanaka; Tokyo: Suiseisha, February 2024).

研究分野：社会思想史

キーワード：社会運動 拡散 メカニズム 思想史 近現代史 グローバル メカニズム トランスナショナル

1. 研究開始当初の背景

1990年代から始まる反グローバル化運動以来、「アラブの春」・オキュパイ・ウォールストリートなどによる「広場の占拠」を経て、2018年からの「気候変動のための学校ストライキ」(未来のための金曜日)などに至るまで、現代の社会運動の特徴は、世界各地でほぼ同時多発的に、似通った運動が形成される、という点に見られた。

このような現象は、衛星放送、インターネット、SNSを通じた運動と思想のグローバルな拡散(diffusion)で生まれ、人権の擁護・貧富の格差の解消・地球環境問題の解決など重要な課題を提起し、これが世界的なインパクトを与えてきた。この場合の拡散とは、ある運動と、その基盤をなす思想が、人・物・金・情報の流れと共に世界各地に多方向に散らばることであり、また、思想とは、言語行為だけでなく、社会運動の基盤をなす非言語的な実践を含む多様な表現行為である。

ただし、この社会運動・思想のグローバルな拡散は、インターネットやSNSが発達した時代における極めて新しい現象と捉えられてきた。そのため、いまだ、歴史上の社会運動に関する叙述では、外部からの影響を受けずに国・地域の枠内で思想・運動が自生的に形成される、と説明される場合が多い。たしかに、近年では、交通・通信網が拡大する「初期グローバル化」を背景にして、遅くとも19世紀から国境を越えて思想が伝播する現象が起きていたことが明らかにされるようになり、運動と思想の国境を越える伝播に関する歴史的研究が進められてきている。

しかしながら、それらの研究で検討されているのは、運動・思想が単一の経路で伝達される事例である。これに対して、一カ所から複数の地域に伝達されることで、地球上で同時多発的に運動が発生する、運動・思想の拡散のメカニズムは解明されていない。また、発信された思想がそのまま受信されるという単純な受容のプロセスしか想定されていない。

これに対して本研究グループは、(1)2012-2015年度科研費基盤研究B「近現代アメリカ社会運動史の再検討」、(2)2016-2019年度基盤研究B「近現代社会運動の国境を越えた相互作用による思想的な研究」において共同研究を行った。

その結果、社会運動とその基盤となる思想の拡散を通じて、世界各地で同時多発的に運動が生まれるという現象が、現代だけでなく、過去1世紀以上にわたってみられてきたという点が明らかになった。しかしながら他方では、従来の研究が、発信された運動・思想を、受信側がそのまま受け入れるものと想定している、という問題を見いだした。というのも、共同研究の結果、発信者の意図にかかわらず、模倣・部分的な流用・改変から拒絶に至る多様かつ複雑なプロセスを経て、運動・思想が受容されている、ということが明らかにされたからである。

ここから、発信から受容に至るまでの拡散のメカニズムを解明する必要性があり、その手がかりは、すでにこれまでの(1)(2)の共同研究で見出していることがわかった。

他方では、運動・思想が対峙するグローバルな統治構造(政治・経済・文化・イデオロギーなど)と思想との関係性に注目することで、別々の地域でばらばらに起きているかのように見える社会運動・思想を、総合的に把握する方法を構築できる、という見通しを持った。

その結果、社会運動・思想のグローバルな拡散は、いかなるメカニズムで生じるのか、という核心的な学術的問いが設定されるに至った。

2. 研究の目的

本研究は、近現代史上の社会運動とその基盤となったさまざまな思想が、世界各地でほぼ同時に形成された原因の一端が、運動と思想のグローバルな拡散(diffusion)にあることを、思想的観点から実証的に解明することを目的とした。その際には、思想の発信から受容に至る拡散のメカニズムを解明すると同時に、世界で同時多発的に運動・思想が生まれるという現象を、それらに対峙するグローバルな統治構造(政治・経済・文化・イデオロギーなど)との関係性の中で捉える枠組みを構築した。これにより、運動・思想が、国家・地域という閉じられた空間に成立する、という従来の見方と異なる、拡散を通じて運動・思想が世界各地で同時多発的に発生するという新たな視点を獲得することを目指した。そのために、社会運動・思想の発信とグローバルなフローはいかにして生じるのか、複数の場所で起きる思想の受容のプロセスはいかにして起きるか/起きないか、思想の模倣・改変・拒絶など複数のパターンは、いかなる条件下で、どのような経緯で生じるのか、同時多発的に発生した運動・思想は、いかなる統治構造と対峙しているのか、という4つの問題領域を検討した上で、社会運動と思想の拡散のメカニズムの解明という目的を達成することを目指した。

3. 研究の方法

本研究は、社会運動と思想の拡散のメカニズムの解明という目的のため、個別・具体的な先行事例の収集、および、各分担者による新たな対象に関する調査及び実証的な研究を基礎とした。

具体的には、研究代表者 1 名と、研究分担者 10 名による共同研究として組織され、対象とする地域ごとに、日本・東アジア担当グループ、および、ヨーロッパ担当グループに所属し、各地域における、社会運動・思想の拡散という現象において、情報の発信源から始まる情報のフロー、それらの受容のプロセス、担当地域と異なる地域における受容のプロセスとの比較、さらに、思想・運動が対峙していたグローバルな統治構造（政治・経済・文化・イデオロギー）について検討を行い、そこから、拡散のメカニズムを解明することを目指した。

4．研究成果

従来、世界ではほぼ同時かつ多発的に、もしくは一定のタイムラグを持って、世界の各地で、似通った社会運動が起きる、そのような現象の原因は、一国から一国への伝播として考えられてきた。これに対して本研究は、近現代史上の社会運動とその基盤となったさまざまな思想が、世界各地でほぼ同時に形成された原因が、運動と思想のグローバルな拡散とそのメカニズムにある、ということ、思想史的観点から実証的に解明することに成功した。

このメカニズムとは、社会運動と思想の情報が多様な方向に広がる中、模倣・改変・部分的利用・拒絶等の多様で複雑な受容のプロセスを経て社会運動が別の場所で生まれる、というものである。

これを具体的な事例で提示しているのが(1)『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』（田中ひかる編、論創社、2023年3月刊行）(2)『国境を越える日本アナーキズム 19世紀末から20世紀半ばまで』（田中ひかる編、水声社、2024年2月刊行）である。

(1)は社会運動のグローバルな拡散というテーマを19世紀末から20世紀後半に至るまでのアジアと欧米における多様な事例によって追求したものであり、(2)は、19世紀末から20世紀前半までの日本アナーキズムに関する事例研究の中で、拡散に関連した現象を検討したものであり、本研究会の副産物的な位置を占め、同時に、本研究会で提示した枠組みの応用事例である。

以上の研究成果により、本研究は通説に大幅な変更を加えたという点で学術的意義があり、世界各地で起きる過去から現在に至る社会運動を理解する上で、新たな認識の枠組みを、多様な人々に提示したという点に社会的意義がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計84件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 1
2. 論文標題 第二次世界大戦後の日本における国境を越えるアナーキストたち WRI（戦争抵抗者インターナショナル）と山鹿泰治らとの交流に焦点を当てて	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 田中ひかる編『国境を越える日本アナーキズム 19世紀末から20世紀前半まで』水声社	6. 最初と最後の頁 213-251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 1
2. 論文標題 日本のアナーキストによる国境を越えたつながり（2） 東アジアの連帯	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 田中ひかる編『国境を越える日本アナーキズム 19世紀末から20世紀前半まで』水声社	6. 最初と最後の頁 57-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 1
2. 論文標題 日本のアナーキストによる国境を越えたつながり（1） 19世紀末から大逆事件まで	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 田中ひかる編『国境を越える日本アナーキズム 19世紀末から20世紀前半まで』	6. 最初と最後の頁 33-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 31
2. 論文標題 ユニシバリズムとアナーキズムとの関係について 現代の地域自治主義とマレイ・ブクチンの思想	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『初期社会主義研究』	6. 最初と最後の頁 183-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 31
2. 論文標題 大杉栄の「首像」と横江嘉純について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『初期社会主義研究』	6. 最初と最後の頁 70-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 3528
2. 論文標題 栗原康著 超人ナイチンゲール 新しいナイチンゲール伝 「超人」ならずとも、誰もがケアの担い手になる時代に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『週刊読書人』	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 1
2. 論文標題 わたしたちが人の「弱さ」にいまどうやって立ち向かうのか、と問いかける作品	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『風よ あらしよ [劇場版] 公式パンフレット』	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 12月16日 (最終)
2. 論文標題 大杉栄の脱神話化と脱権威化に向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『沓谷だより』	6. 最初と最後の頁 17-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 44
2. 論文標題 墓前祭に参加して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『アナキズム』	6. 最初と最後の頁 2-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 47
2. 論文標題 『ブルードン - - 反「絶対」の探求』(金山準)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『社会思想史研究』	6. 最初と最後の頁 203-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 1
2. 論文標題 なぜ私は墓前祭に参加するのか 100年目に考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『「9月は苦の月」(続) 虐殺から100年 橘宗一少年の墓碑保存運動の49年』	6. 最初と最後の頁 15-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 42
2. 論文標題 反権威インターナショナル150周年国際集会参加記	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アナキズム	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 崎山直樹	4. 巻 1
2. 論文標題 ブレグジット以降の北アイルランド情勢：揺らぐ和平合意とウィンザー・フレームワーク	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 須田努編 『社会変容と民衆暴力 人びとはなぜそれを選び、いかに語られたのか』 大月書店	6. 最初と最後の頁 119-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 崎山直樹	4. 巻 1043
2. 論文標題 特設部会 石居人也 人文学で何ができるか,そのなかで歴史学は 阿部麻衣子 歴史研究者と社会をつなぐ---2023年度歴史学研究会大会報告批判	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 52-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 131
2. 論文標題 Social welfare and scientific racism in modern Japan: discriminated Buraku and the philanthropist Toyohiko Kagawa	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 72
2. 論文標題 留岡幸助日記の書誌的考察	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『キリスト教社会問題研究』	6. 最初と最後の頁 139-166
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makiko Takemoto	4. 巻 11/ 1
2. 論文標題 Peace Studies in Japan: Co-evolution of Knowledge and Practice	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Journal of Peacebuilding	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本明代	4. 巻 46
2. 論文標題 書評：大津留厚『さまよえるハプスブルク 捕虜たちが見た帝国の崩壊』（岩波書店、2021年）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『東欧史研究』	6. 最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本明代	4. 巻 275
2. 論文標題 書評：辻河典子『パリ講和会議体制とハンガリー 亡命政治家からみたヨーロッパ国際関係』（東京大学出版会、2021年）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『西洋史学』	6. 最初と最後の頁 67-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 1
2. 論文標題 徴兵忌避者のグローバル・アナーキズム ニコライ・ペトロフ=パヴロフの函館と大連における活動とその意義	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 田中ひかる編『国境を越える日本アナーキズム 19世紀末から20世紀前半まで』水声社	6. 最初と最後の頁 123-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 31
2. 論文標題 ミハイル・バクーニンにおけるウクライナ問題—スラヴ連邦構想と現代	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『初期社会主義研究』	6. 最初と最後の頁 140-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 51
2. 論文標題 【書評】イーゴリ・エヴラームピエフ著 / 下里俊行・坂庭淳史・渡辺圭・小俣智史・齋須直人訳 『ロシア哲学史：絶対者と 人格の生 の相剋』水声社、2022年、632ページ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『ロシア・東欧研究』	6. 最初と最後の頁 117-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuichiro Onishi and Toru Shinoda	4. 巻 -
2. 論文標題 Chapter 5. The Transpacific Reworking of Race and Marxist Theory : The Case of Harry Haywood 's Lifework	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Black Transnationalism and Japan, Editor: Natalia Doan & Sho Konishi, Leiden University Press	6. 最初と最後の頁 135-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田徹	4. 巻 54
2. 論文標題 ラディカル・アメリカ トランス・パシフィック・レーバー・ヒストリー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 POSSE	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田 徹	4. 巻 55
2. 論文標題 ラディカル・アメリカ トランス・パシフィック・レーバー・ヒストリー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 POSSE	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田 徹	4. 巻 2023-12
2. 論文標題 大幅賃上げ ストで闘う米国労組	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『ひろばユニオン』2023年12月号	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田 徹	4. 巻 756
2. 論文標題 書評 早川純貴 『「公労協」労働運動の終焉』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『日本労働研究雑誌』	6. 最初と最後の頁 80-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口 守	4. 巻 21
2. 論文標題 衛惠林の生涯 アナキストから人類学者へ	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『中国語中国文化』	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅森直之	4. 巻 1
2. 論文標題 解説 幸徳 秋水 『兆民先生 他八篇』岩波書店	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 幸徳 秋水 『兆民先生 他八篇』岩波書店	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 -
2. 論文標題 エマ・ゴールドマンの思想の国境を越えた拡散	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 田中ひかる編著 『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』論創社	6. 最初と最後の頁 36-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 -
2. 論文標題 アナキストによる国境を越えた連帯	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『岩波講座世界歴史 第21巻 二つの大戦と帝国主義』岩波書店	6. 最初と最後の頁 281-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 -
2. 論文標題 相互扶助による「支配のない状態」の実現は可能か ビョートル・クロボトキンの相互扶助論に焦点を当てて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩野卓司、丸川哲史編 『野生の教養 飼いならされず、学び続ける』法政大学出版会	6. 最初と最後の頁 175-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 10
2. 論文標題 大杉栄の「首像」のこと	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 沓谷だより	6. 最初と最後の頁 5-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 崎山直樹	4. 巻 131-5
2. 論文標題 回顧と展望、近代、イギリス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『史学雑誌』	6. 最初と最後の頁 344-350
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 -
2. 論文標題 全国水平社の創立と「人間は尊敬すべきものだ」という思想 クロポトキン「相互扶助論」の受容と ゴーリキー『どん底』解釈に着目して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 田中ひかるの編著『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』論創社	6. 最初と最後の頁 109-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 -
2. 論文標題 Burakumin Emigrants to America: Historical Experience of "Racialization" and Solidarity across the Pacific	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Race and Migration in the Transpacific (Routledge)	6. 最初と最後の頁 55-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関口寛	4. 巻 -
2. 論文標題 近代社会事業の形成と「救済」観の転換	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 佐々田悠, 船田淳一, 関口 寛, 小田龍哉編『差別と宗教の日本史 : 救済の「可能性」を問う』法蔵館 298 9784831857224	6. 最初と最後の頁 269-284
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹本真希子	4. 巻 -
2. 論文標題 反核運動の拡散 広島と世界連邦	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 田中ひかるの編著『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』論創社	6. 最初と最後の頁 229-265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹本真希子	4. 巻 -
2. 論文標題 日本の反核市民運動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 広島市立大学広島平和研究所編『アジアの平和とガバナンス』有信堂	6. 最初と最後の頁 238-248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹本真希子	4. 巻 -
2. 論文標題 翻訳 ホルガー・ネーリング「戦争の記憶と広島の忘却 冷戦期の西ドイツにおける反核運動」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 マイケル・D. ゴーディン、G. ジョン・アイケンベリー (編)、藤原帰一、向和歌奈 (監訳)『国際共同研究 ヒロシマの時代 原爆投下が変えた世界』岩波書店	6. 最初と最後の頁 169-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 30
2. 論文標題 一九三〇年代ソ連におけるアナーキズム批判：二冊の『ロシアにおけるアナーキズム』をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『初期社会主義研究』	6. 最初と最後の頁 173-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 62
2. 論文標題 【北東アジア研究最前線】ウクライナ侵攻の思想的背景	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳥根県立大学北東アジア地域研究センター NEAR NEWS	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 109
2. 論文標題 [書評] Darius Staliunas and Yoko Aoshima (eds.), The Tsar, the Empire, and the Nation: Dilemmas of Nationalization in Russia's Western Borderlands, 1905-1915	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 92-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 -
2. 論文標題 「マフノ後のマフノ運動」の拡散過程におけるアナーキストの役割	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 田中ひかる編著『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』論創社	6. 最初と最後の頁 71-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本明代	4. 巻 869
2. 論文標題 ヨーロッパ移民からみた米国のレイシズム	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 42-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本明代	4. 巻 -
2. 論文標題 1956年のハンガリー革命後の難民学生による社会運動	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 田中ひかるの編著『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』論創社	6. 最初と最後の頁 192-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本明代	4. 巻 -
2. 論文標題 アメリカへの移民	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 川成洋・菊池良生・佐竹謙一編『ハプスブルク事典』丸善出版	6. 最初と最後の頁 514-515
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 -
2. 論文標題 F T A : 反戦ショー巡業という社会運動の交錯	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 田中ひかるの編著『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』論創社	6. 最初と最後の頁 266-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 -
2. 論文標題 爆心都市からあいだの都市へ：植民地主義と戦争の責任という経路	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高雄きくえ編『広島爆心都市からあいだの都市へ：「ジェンダー×植民地主義交差点としてのヒロシマ」連続講座論考集』インパクト出版会	6. 最初と最後の頁 330-358
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 -
2. 論文標題 アメリカ黒人解放闘争とパレスティナとの連帯：テキストとアートで辿る闘争の経路	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 在日本韓国YMCA編『交差するパレスチナ：新たな連帯のために』新教出版社	6. 最初と最後の頁 79-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口守	4. 巻 -
2. 論文標題 中国アナキストによる農村教育運動の展開 モダン・スクールとの共鳴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 田中ひかる編著『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』論創社	6. 最初と最後の頁 143-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口守	4. 巻 20
2. 論文標題 賈植芳先生の日本経験と魯迅	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『中国語中国文化』	6. 最初と最後の頁 49-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34489/nichidaichubun.2023.20_49	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口守	4. 巻 -
2. 論文標題 解説 近代台湾人の精神を巡る旅	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 呉濁流 『アジアの孤児』 岩波書店	6. 最初と最後の頁 363-371
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口守	4. 巻 3470
2. 論文標題 2022 年回顧総特集・外国文学(中国)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『週刊読書人』	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 759
2. 論文標題 女性の解放とアナキズム - エマ・ゴールドマン、伊藤野枝、そしてロジャヴァ革命に焦点を当てて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『大原社会問題研究所雑誌』	6. 最初と最後の頁 22-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 4
2. 論文標題 アナキズムとフェミニズムとの関係について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『文學界』	6. 最初と最後の頁 114-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 44
2. 論文標題 ロナルド・V・ジョンソン冤罪裁判に見る反人種主義と反戦連帯のデカラージュ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『アメリカ史研究』	6. 最初と最後の頁 30-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 14
2. 論文標題 Texts That Matter : 黒人解放闘争の開放性と連帯の文献系譜学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『同時代史研究』	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 24
2. 論文標題 小特集V : 書評会 吉田裕著『持たざる者たちの文学史 帝国と群衆の近代』カリブ海移動文学から連帯の運動文学史へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『Quadrante : クアドランテ : 四分儀 : 地域・文化・位置のための総合雑誌』	6. 最初と最後の頁 175-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/117447	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 77-1
2. 論文標題 軍事主義インフラに抗する、連帯の脱植民地化に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『福音と世界』	6. 最初と最後の頁 29-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 30
2. 論文標題 1930年代ソ連におけるアナーキズム批判：二冊の『ロシアにおけるアナーキズム』をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『初期社会主義研究』	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山泉進、田中ひかる、山本健三	4. 巻 30
2. 論文標題 幸徳秋水・クロボトキン往復書簡	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『初期社会主義研究』	6. 最初と最後の頁 273-337
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹本真希子	4. 巻 -
2. 論文標題 ヒロシマの語られ方 ドイツの事例から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『広島発の平和学』（広島市立大学広島平和研究所編）	6. 最初と最後の頁 137-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makiko Takemoto	4. 巻 1
2. 論文標題 Peace and Peace Movements in Japanese History	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Contemporanea	6. 最初と最後の頁 113-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田 徹	4. 巻 48
2. 論文標題 書評 木下武男著『労働組合とは何か』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『POSSE [ポッセ]』	6. 最初と最後の頁 120-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田 徹	4. 巻 3
2. 論文標題 書評 黒川伊織『戦争・革命の東アジアと日本のコミュニスト』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『社会運動史研究』	6. 最初と最後の頁 223-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田 徹	4. 巻 759
2. 論文標題 書評 今野晴貴著『ストライキ 2.0 ブラック企業と 闘う武器』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『大原社会問題研究雑誌』	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山口 守	4. 巻 19
2. 論文標題 アイダ・ブルーイトの生涯：二つの国と二つの文化 (4)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中国語中国文化』	6. 最初と最後の頁 54-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口守	4. 巻 -
2. 論文標題 巴金興西班牙内戦	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『日本漢学中の上海文学研究』（王晴編）	6. 最初と最後の頁 201-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口守	4. 巻 100(145)
2. 論文標題 英雄のいない戦場 巴金が描く死者たち	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『三田文学』	6. 最初と最後の頁 130-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅森直之	4. 巻 -
2. 論文標題 方法としての「和解学」－紛争解決学の東アジア的基礎	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『和解学の試み－記憶・感情・価値』（浅野豊美編）	6. 最初と最後の頁 29-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅森直之	4. 巻 28
2. 論文標題 社会学は多声性と共存しうるか：大谷栄一『日蓮主義とはなんだったのか』の方法論的読解	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『近代仏教』	6. 最初と最後の頁 121-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 29
2. 論文標題 伊藤野枝によるエマ・ゴールドマンの思想の受容について 大杉栄・荒畑寒村との比較を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『初期社会主義研究』	6. 最初と最後の頁 174-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 -
2. 論文標題 ロシア革命とロシア人アナキスト亡命者たちの思想変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近代ヨーロッパと人の移動 植民地・労働・家族・強制』山川出版社	6. 最初と最後の頁 164-186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 104
2. 論文標題 ロシア出身のユダヤ系移民によるアナキズム運動 「人の移動」と思想・運動の形成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『ロシア史研究』	6. 最初と最後の頁 25-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 547
2. 論文標題 エッタ・フェーデルンとエマ・ゴールドマン - 自伝Living My Life (1931)の影響についての考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『明治大学教養論集』	6. 最初と最後の頁 89-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中ひかる	4. 巻 -
2. 論文標題 解題 戸田三三冬 その研究の軌跡 - マラテスタ、アナキズム、そして平和学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『平和学と歴史学 - - アナキズムの可能性』三元社	6. 最初と最後の頁 519-564
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 7
2. 論文標題 縫い合わせる鳥々の政治詩学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『越境広場』	6. 最初と最後の頁 86-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿部小涼	4. 巻 75-8
2. 論文標題 兵士のプロテスト、教会の反戦	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『福音と世界』	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本健三	4. 巻 29
2. 論文標題 20世紀初頭の東アジアにおけるクロボトキン主義の拡散 - - 科学主義と道徳性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『初期社会主義研究』	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山口守	4. 巻 33
2. 論文標題 巴金在台湾	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代中国文化興文学』	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 崎山直樹	4. 巻 849
2. 論文標題 歴史の眼 英国のEU離脱と北アイルランド	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 74-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠田徹	4. 巻 1108 (76-3)
2. 論文標題 トランプ現象とは何か - 比較労働政治研究からの一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『国際経済労働研究』	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹本真希子	4. 巻 -
2. 論文標題 ドイツにおける医師の平和運動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『核と放射線の現代史』(若尾祐司・木戸衛一(編))昭和堂	6. 最初と最後の頁 392-404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 13件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 田中ひかる
2. 発表標題 今後100年の伊藤野枝研究に向けて
3. 学会等名 初期社会主義研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 崎山直樹
2. 発表標題 1830年代ブリテンにおける教育改革と中央教育協会：アイルランドとの関わりを中心に
3. 学会等名 日本アイルランド協会歴史研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 崎山直樹
2. 発表標題 日本における歴史研究の現在地 ～『日本アイルランド協会 50年史』を超えて
3. 学会等名 2023年度第30回アイルランド研究年次大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 崎山直樹
2. 発表標題 アイルランド史研究者からのコメント 衣笠太朗著『ドイツ帝国の解体と「未完」の中東欧』
3. 学会等名 西洋近現代史研究会 書評会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 崎山直樹
2. 発表標題 森ありさの著作を読み直す
3. 学会等名 日本アイランド協会歴史研究会「森ありささん追悼研究会」(招待講演)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 梅森直之
2. 発表標題 伊藤野枝・大杉栄 没後100年によせて
3. 学会等名 伊藤野枝・大杉栄ら没後100年記念シンポジウム「自由な自己の道を歩いて行こう」明治大学リパティータワー1階 1012教室(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 櫻田和也
2. 発表標題 国鉄・地下鉄森ノ宮駅の開業と周辺開発 1932-1982
3. 学会等名 大阪公立大学 博学連携講演会「森ノ宮には何があった?」大阪の「ヒガシ」の歴史をさぐる(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 櫻田和也, 家成俊勝, 土井亘
2. 発表標題 イタリア社会センターに学ぶ空き物件の使い方
3. 学会等名 ドットアーキテクツ展 Politics of Living 生きるための力学(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 櫻田和也
2. 発表標題 記録とアーカイピング: NAMURA ART MEETING '04-'34を契機として
3. 学会等名 大阪公立大学「EJ ART」人材育成プログラム基礎講座（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中ひかる
2. 発表標題 アナキズムの現在と未来を考える - 『アナキズムを読む』を刊行して
3. 学会等名 静岡近代史研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本健三
2. 発表標題 100年以上続くロシアとの民間交流にも影 「国家同士だけではできないこと」の重要性高まるが...【島根発】
3. 学会等名 TSKさんいん中央テレビ『イット!』（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 阿部小涼
2. 発表標題 市民的不服従と沖縄の反軍事主義実践
3. 学会等名 明治学院大学国際平和研究所2022年度PRIME主催連続セミナー <市民的不服従>を通して平和を考える第6回沖縄における<抵抗>の現在（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 櫻田 和也; 川野 英二; 原口 剛; 谷合 佳代子; 吉村 智博
2. 発表標題 釜ヶ崎史料アーカイブ : 調査史の方法としての個人文書と写真記録 (11月13日、ポスターセッション)
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 阿部小涼
2. 発表標題 地域に居座る米軍事主義ネットワークの平行世界
3. 学会等名 日本アメリカ史学会第18回年次大会シンポジウムB (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中ひかる
2. 発表標題 書評: 新谷卓、中島浩貴、鈴木健雄編著『歴史のなかのラディカリズム』(彩流社、2021年)
3. 学会等名 現代史研究会3月例会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本健三
2. 発表標題 Diffusion of 'Makhnovshchina after Makhno' in the 1920s and 1930s
3. 学会等名 10th World Congress of the International Council for Central and East European Studies (ICCEES): "Bridging National and Global Perspectives" (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本明代
2. 発表標題 コメント：柴理子氏「トドロヴィチ夫妻の足跡をたどって 移動する個人からみる東 欧地域研究の試み 」
3. 学会等名 東欧の地域研究の未来 柴宜弘先生追悼シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本明代
2. 発表標題 書評：大津留厚『さまよえるハプスブルク 捕虜たちが見た帝国の崩壊』（岩波書店、2021年）
3. 学会等名 東欧史研究会3月例会関西例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Makiko Takemoto
2. 発表標題 Japanese Peace and Pacifism: a Comparative Study between Japan and West Germany
3. 学会等名 International conference, "Trails of Peace Between History, Memory and Communication," held at University IULM in Milan, Italy, via Zoom
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口守
2. 発表標題 台湾文學史應當立體化而看
3. 学会等名 思相枝:台灣文學史編輯與纂寫國際學術研討會(オンライン)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梅森直之
2. 発表標題 変奏するアナーキズム：初期社会主義の思想的可能性
3. 学会等名 日本学会議公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 阿部小涼
2. 発表標題 なかったことにされてきた声を聞く
3. 学会等名 『社会運動史研究2』刊行記念イベント（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 田中ひかる（編者）、後藤彰信、山本健三、小野容照、森元斎	4. 発行年 2024年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 294
3. 書名 『国境を越える日本アナーキズム 19世紀末から20世紀前半まで』	

1. 著者名 山本明代	4. 発行年 2024年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 456
3. 書名 『第二次世界大戦期東中欧の強制移動のメカニズム』	

1. 著者名 大野, 光明, 小杉, 亮子, 松井, 隆志, 阿部, 小涼, 酒井, 隆史, 市橋, 秀夫, 小泉, 英政, 相川, 陽一, 松本, 麻里, 飛田, 雄一, 韓, 光勲, 鎗山, 善理子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 164
3. 書名 直接行動の想像力	

1. 著者名 田中ひかる (編著)、山本健三、関口寛、山口守、竹本真希子、山本明代、阿部小涼	4. 発行年 2023年
2. 出版社 論創社	5. 総ページ数 304
3. 書名 『社会運動のグローバルな拡散 創造・実践される思想と運動』	

1. 著者名 山口守	4. 発行年 2023年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 362
3. 書名 『中国の民衆と生きたアメリカ人 アイダ・ブルーイットの生涯』	

1. 著者名 田中ひかる編、山口守・山本明代・山本健三 (分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 皓星社	5. 総ページ数 181
3. 書名 『アナキズムを読む - - <自由> を生きるためのブックガイド』	

1. 著者名 山本明代（分担執筆：ハンガリーの人の移動；中東欧からアメリカ合衆国への移民）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 823
3. 書名 『中欧・東欧文化事典』	

1. 著者名 北村暁夫、田中ひかる共編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 189
3. 書名 『近代ヨーロッパと人の移動：植民地・労働・家族・強制』山川出版社	

1. 著者名 ラン・ツヴァイゲンバーグ（著）、若尾祐司・西井麻里奈・高橋優子・竹本真希子（共訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 424
3. 書名 『ヒロシマ グローバルな記憶文化の形成』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阿部 小涼 (Abe Kosuzu) (00292722)	琉球大学・人文社会学部・教授 (18001)	
研究分担者	崎山 直樹 (Sakiyama Naoki) (10513088)	千葉大学・大学院国際学術研究院・准教授 (12501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	関口 寛 (Sekiguchi Hiroshi) (20323909)	同志社大学・人文科学研究所・准教授 (34310)	
研究分担者	山本 健三 (Yamamoto Kenso) (20737530)	島根県立大学・国際関係学部・教授 (25201)	
研究分担者	竹本 真希子 (Takemoto Makiko) (50398715)	広島市立大学・付置研究所・准教授 (25403)	
研究分担者	篠田 徹 (Shinoda Toru) (60196392)	早稲田大学・社会科学総合学術院・教授 (32689)	
研究分担者	山本 明代 (Yamamoto Akiyo) (70363950)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・教授 (23903)	
研究分担者	櫻田 和也 (Sakurada Kazuya) (70555325)	大阪公立大学・大学院文学研究科・都市文化研究センター研究員 (24405)	
研究分担者	梅森 直之 (Umemori Naoyuki) (80213502)	早稲田大学・政治経済学術院・教授 (32689)	
研究分担者	山口 守 (Yamaguchi Mamoru) (70210375)	日本大学・文理学部・教授 (32665)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------